



Title	沖縄の食にみる米国統治の影響（第二報）：沖縄県民の洋風ファーストフード利用の実態と意識調査
Author(s)	金城, 須美子; 田原, 美和
Citation	琉球大学教育学部紀要 第一部・第二部(47): 181-189
Issue Date	1995-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/1899">http://hdl.handle.net/20.500.12000/1899</a>
Rights	

# 沖縄の食にみる米国統治の影響（第二報）

～沖縄県民の洋風ファーストフード利用の実態と意識調査～

金城 須美子\*      田原 美和\*\*  
(\*琉球大学教育学部      \*\*浦添高等学校)

The Influence of the U.S.A on the Okinawan Diet—Investigation and Circumstances of Okinawan Consumers regarding Fast—Food

Sumiko Kinjo\* and Miwa Tahara\*\*

Since the Okinawan people have taken fast—food into their diet in the same way as people in the West and the United States have, we investigated the circumstances and consciousness of Okinawan consumers about the fast—food that they eat.

The objectives of our study involved students of the University of the Ryukyus and employees of the Bank of Okinawa on Okinawa, Japan. Results indicated, first of all, that Okinawan students consumed fast—food considerably; and fast—food restaurants were popular with the students. Consumers included 76.8 percent of Okinawan students and 52.2 percent of students who came from other prefectures. Both groups reported having fast—food as their main meals twice a month. Secondly, there did not appear to be a great difference in the taste of Okinawan students and others. However, Okinawan students preferred Big Mac, Mos Burgers, pizza, and tacos. Thirdly, 60 percent of the students agreed regarding fast—food. The Bank of Okinawa personnel reported not only that young people as consumers had fast—food as a meal but that 50 percent of the personnel over fifty years of age consumed fast—food more than once a month. Also, 54 percent of the participants in the sample reported positive answers to having fast—food in their diet, regardless of age.

In conclusion, since American fast—food chain restaurants like A & W have been successful on Okinawa, fast—food has evolved as an easy meal or snack for Okinawans. We were concerned with the reasons why the Okinawan people have accepted fast—food in their diet. It appears that the Okinawan people have become accustomed to American food because of the influence of the U.S. presence here on Okinawa.

## I. 緒言

沖縄は、第二次世界大戦後の1945年から1972年の間、米国統治下におかれ、食生活にも様々な影響を受けてきた。

前報では、米国統治時代に導入された外資系洋

風ファーストフードの歴史や沖縄進出の経緯、企業別店舗数の推移と実態を把握し、それが沖縄県民の食生活に及ぼした影響について考察した。

本報では、洋風ファーストフードが、沖縄県民の食生活にいかにかに受け入れられ定着しているのか、

---

\*The Faculty of Education, University of The Ryukyu

\*\*Urasoe High School

その受容の実態と意識を調査・分析し、米国統治の影響についてみることにした。

## II. 調査の概要

### 1. 調査対象と時期

琉球大学の学生および、社会人を対象に洋風ファーストフードの利用状況とその意識についてアンケート調査を行った。学生は、県内出身者、県外出身者別に、社会人は年代別の比較・検討を行った。対象は、琉球大学教育学部一年次（平成二年度入学生）233名、県内大手銀行の行員330名を対象とし、前者は平成2年4月、後者は同年8月に調査を実施した。その内訳は、表1に示した。回収率は学生で93.1%、銀行員で77.8%であった。

表1 調査対象者の内訳

#### 1. 学生対象

出身地	県内	県外	計(人)
男	35	50	85
女	86	40	126
計	121	90	221

#### 2. 銀行員対象

年代別	10代	20代	30代	40代	50代以上	計(人)
男	3	14	43	61	54	175
女	2	31	22	14	9	78
性別不明	0	0	0	2	2	4
計	5	45	65	77	65	257

2. 調査項目は(1)洋風ファーストフードの利用状況(2)利用する理由(3)嗜好性(4)利用に対する意識(5)今後の動向を設定し、洋風ファーストフード利用に関する実態、および意向について調査を行った。

### 3. 分析方法

各項目ごとの単純集計と、県内・県外学生別、年代別のクロス集計をおこなった。なお学生を対象とした調査、沖縄県出身学生と他府県出身学生の間には有意差検定を行った。

## III. 結果および考察

### 1. ファーストフード利用に関する実態調査

#### (1) 洋風ファーストフード利用状況

一琉大学生一外食時によく利用している飲食店を3つ選択させた結果、表2に示した通り県内学生、県外学生と比較してみると、県内学生は「洋風ファーストフード店」を選んだ者が84.3%と最も多く、次いで「喫茶店」59.5%、「一般食堂」57.8%であった。県外学生では、「一般食堂」が71.1%、「洋風ファーストフード店」は61.6%、「喫茶店」37.7%とその利用率に差がみられた。特に、県内学生の洋風ファーストフード利用率は県外学生を約20%も上回る高い値を示しており、洋風ファーストフード店の利用者が多いことが示唆された。

次に、洋風ファーストフードの利用頻度をみると、県内・県外学生とも「月2～3回」が最も多いが、2回以上利用している学生は県内で76.8%、県外で52.2%と利用頻度も有意差がみられた。また県外学生では、「ほとんど利用しない」、「全く利用しない」と答えた者が24.4%あるのに対して、県内学生では5%と低く、県内学生の方が洋風ファーストフードをよく利用していることがわかった。

洋風ファーストフード店は他の飲食店に比べて利用しやすいか否か、についてみると県内学生の約80%が「利用しやすい」と答えたのに対して、県外学生は50%と低く有意差がみられた。また「利用しにくい」と答えた比率も県外学生が高い。したがって、洋風ファーストフード店を利用しやすい飲食店だと考えているのは県内学生の方で、その背景には沖縄は本土と比べ洋風ファーストフード店の進出が早く、また、人口1万人当たりに対する店舗数も全国でも上位を占めることから<sup>1)</sup>他の飲食店より馴染みが深く利用しやすいものと推察した。

#### (2) 洋風ファーストフード利用の理由

洋風ファーストフード利用の理由については、「手軽で便利だから」との答えが最も多く、県内学生は約77.7%、県外学生では60%であった。次いで「待たないから」、「時間がないから」を合わせると県内学生で86.8%、県外学生は73.3%となり、いずれも簡便性から利用しているようである。「おいしいから利用する」としたのは県内・

表2 洋風ファーストフードの利用状況 -琉大学生-

質 問 項 目	カ テ ゴ リ	県内学生(%)	県外学生(%)
1. よく利用する 飲食店 (重複回答)	1. 一般飲食店	70(57.8) *	64(71.1)
	2. 日本料理店	13(10.7)	14(15.5)
	3. 西洋料理店	15(16.6)	13(14.4)
	4. 中華・東洋料理店	7(7.7)	14(15.5)
	5. そば・うどん店	26(28.8)	32(35.5)
	6. 洋風ファーストフード店	102(84.4) **	55(61.1)
	7. ファミリーレストラン	42(34.7)	36(37.7)
	8. 喫茶店	72(59.5)	36(37.7)
	9. 寿司店	9(7.4)	5(5.5)
2. 洋風ファーストフード (以下洋フ店に省略) の利用状況	1. 週に2,3回	1(0.8)	3(3.3)
	2. 週に一回	31(25.6)	11(12.2)
	3. 月に2,3回	61(50.4) **	33(36.7)
	4. 2,3カ月に一回	22(18.2)	21(23.3)
	5. ほとんど利用しない	6(5.0)	19(21.1)
	6. 全く利用しない	0(0.0)	3(3.3)
3. 洋フは利用しやすいか	1. はい	97(80.2) **	45(50.0)
	2. いいえ	3(2.5)	6(6.7)
	3. どちらともいえない	21(17.4)	39(43.3)
4. 洋フを利用する理由	1. おいしいから	11(9.1)	8(8.9)
	2. 安いから	4(3.3)	5(5.6)
	3. 手軽で便利だから	94(77.7) *	54(60.0)
	4. 待たない	9(7.4)	11(12.2)
	5. 料理する時間がない	2(1.7)	1(1.1)
	6. 自分で料理できない	0(0.0)	2(2.2)
	7. その他	1(0.8)	9(10.0)

\*P<0.05, \*\*P<0.01

県外学生とも約9%と少ない。

(3) 居住地周辺の洋風ファーストフードの店舗数

次に、居住地周辺(大学入学前)の洋風ファーストフードの店舗数(車で30分以内)について調べ、その結果を表3に示した。「2店舗以上」と答えた者は県内学生で92.5%、県外学生では76.7%とその差が大きい。「4店舗以上」と答えた者の割合は県内学生では76%、県外学生では41.1%と約35%の差があり、「一店もなし」と答えた

者は、県外学生で13.3%であるのに対して県内学生は4%とわずかである。こうした状況からみても県内学生の方が洋風ファーストフード店を利用しやすい環境にあることを示している。また、ドライブスルーを設置している店舗数は、「2~4店舗以上」を合わせると県内学生で81%、県外学生で46.6%と差がある。また県外学生は皆無としたものが34.5%もあり、県内学生の方がドライブスルーを設置している洋風ファーストフード店を利用する機会が多いといえる。これは沖縄の主

表3 居住地周辺の洋風ファーストフードの店舗数 -琉大学生-

質 問 項 目	カ テ ゴ リ	県内学生(%)	県外学生(%)
1. 居住地周辺の洋フ 店舗数	1. 1店	5(4.1)	9(10.0)
	2. 2,3店	20(16.5)	32(35.6)
	3. 4店以上	92(76.0)	37(41.1)
	4. なし	4(3.3)	12(13.3)
2. ドライブスルー のある洋フ店舗数	1. 1店	12(9.9)	17(18.9)
	2. 2,3店	53(43.8)	31(34.4)
	3. 4店以上	45(37.2)	11(12.2)
	4. なし	11(9.1)	31(34.5)

要交通機関が自動車であることが最大の要因といえる。大手洋風ファーストフード店の聴取調査によっても県内ではドライブスルーの利用率は高く、休日には店内で食べるよりドライブスルーを利用する家族連れや若者の車が目立つという。

(4) 食体験の年代

洋風ファーストフードを初めて食べた時期について小学生以前、あるいは小学生、中学生、高校生の頃かについて表4に示した。

ア. ハンバーガーは「小学生以前」に食べたこ

表4 食体験の年代 - 琉大学生 -

質問項目	カテゴリー	県内学生(%)	県外学生(%)
1. 洋風のハンバーガーを初めて食べた時期	1. 小学生以前	42(34.7)	6(6.7)
	2. 小学生の頃	72(59.5)	59(65.6)
	3. 中学生の頃	5(4.1)	22(24.4)
	4. 無答	2(1.7)	3(3.3)
2. 洋風のフライドチキンを初めて食べた時期	1. 小学生以前	41(33.9)	6(6.7)
	2. 小学生の頃	66(54.5)	38(42.2)
	3. 中学生の頃	10(8.3)	37(41.1)
	4. 高校生の頃	1(0.8)	3(3.3)
	5. 無答	3(2.5)	6(6.7)

とがあると答えた者が県内学生で34.7%、県外学生では6.7%、「小学生の頃」までを合わせると県内学生では94.2%、県外学生では72.3%と差がみられた。即ち、県内学生の方が食体験の年代が若く、幼児期の早いうちからハンバーガーを食べていたことがわかる。これは沖縄では日本本土より約7年早くハンバーガー店が設立され、復帰後は外資系と国内資本系の合併型ハンバーガー企業の沖縄進出も盛んであった<sup>2)</sup>ことから、ハンバーガー店を利用する機会が早かったことが要因と思

われる。

イ. フライドチキンの食体験は「小学生以前」・「小学生の頃」とした者が、県内学生では88.4%、県外学生で48.9%であった。県外学生では中学生以降と答えた者も44.4%いることから県内学生の方がフライドチキンに馴染む時期も早かったことがわかる。

(5) 洋風ファーストフードの付け合わせ

洋風ファーストフードのハンバーガーを食べる時の付け合わせに何を选ぶか調べた結果、表5に

表5 洋風ファーストフードの付け合わせ - 琉大学生 -

質問項目	カテゴリー	県内学生(%)	県外学生(%)
1. 洋風のハンバーガーを食べる時の付け合わせ	1. ドリンク	117(96.7)	85(94.4)
	2. スープ	22(18.2)	8(8.9)
	3. ポテト	109(90.1)	75(83.3)
	4. チキンナゲット	6(5.0)	15(16.7)
	5. アップルパイ	17(14.0)	12(13.3)
	6. サラダ	29(7.4)	17(18.9)
	7. チキン	2(1.7)	12(13.3)
	8. アイスクリーム	11(9.1)	8(8.9)
	9. コーン	8(6.6)	7(7.8)
2. 洋風のフライドチキンを食べる時の付け合わせ	1. ドリンク	114(94.2)	71(78.9)
	2. スープ	13(10.7)	11(12.2)
	3. ポテト	57(47.1)	28(31.1)
	4. チキンナゲット	3(2.5)	8(8.9)
	5. アップルパイ	5(4.1)	9(10.0)
	6. サラダ	55(45.5)	28(31.1)
	7. チキン	46(38.0)	20(22.2)
	8. アイスクリーム	6(5.0)	6(6.7)
	9. コーン	15(12.4)	6(6.7)
	10. フライドフィッシュ	3(2.5)	0(0.0)

示したとおり「ドリンク」を選択した者が県内学生で96.7%、県外学生では94.4%と共に高く、ついで「ポテト」が県内学生で90.1%、県外学生では83.3%であった。マクドナルド店長を対象に実施した聴取調査では、ポテトは沖縄県内で人気が高く、ハンバーガーと同量の売上数だという。

ハンバーガーとポテトの組み合わせは米国人が好んで食べる付け合わせであり、こうした食習慣の影響を受けたものと思われる。但し、県内、県外学生との差はほとんどない。

フライドチキンの付け合わせには、県内・県外とも「ドリンク」「ポテト」、「サラダ」の割合

が高く、県外学生では「チキンナゲット」、「アップルパイ」の付け合わせがやや高い傾向を示した。サラダは県内、県外とも高い割合を示しているのは、油っこいチキンにはあっさりしたサラダが合うといった嗜好性に加え、栄養的にバランスのとれた取合わせをといった意識もあるのではないかと推察される。

(6) 洋風ファーストフードの嗜好性

主なものを11品目挙げ、5段階評価による嗜好度を調べた。各項目ごとに「大好き」、「好き」、「普通」、「あまり好きでない」、「嫌い」の5段階に分けその割合を表6に示した。

表6 洋風ファーストフードの嗜好調査結果 (%)

品目	対象	大好き	好き	普通	あまり好きではない	嫌い	無回答
バーガー	県内(学生)	10.7	43.8	35.5	4.1	2.5	3.3
	県外(学生)	12.2	32.2	36.7	6.7	6.7	5.6
フィッシュ	県内	8.3	38.8	36.4	10.7	2.5	3.3
	県外	7.8	21.1	46.7	15.6	2.2	6.7
ピザ	県内	16.5	25.6	36.4	14.0	3.3	4.1
	県外	11.1	15.6	51.0	7.8	6.7	7.8
チキン	県内	9.4	39.7	34.7	9.1	2.5	4.1
	県外	17.8	35.6	26.7	10.0	3.3	6.7
モスバーガー	県内	23.1	29.8	33.1	8.3	2.5	3.3
	県外	11.1	18.9	23.3	35.6	8.9	2.2
フライドチキン	県内	13.2	47.1	28.1	7.4	0.8	3.3
	県外	24.4	34.4	25.6	8.9	2.2	4.4
チキンナゲット	県内	12.4	29.8	42.1	12.4	0.0	3.3
	県外	13.3	28.9	40.0	8.9	2.2	6.7
ピザ	県内	24.8	40.5	20.7	7.4	3.3	3.3
	県外	22.2	32.2	28.9	5.6	4.4	6.7
タコス	県内	12.4	22.3	38.8	16.5	5.0	5.0
	県外	3.3	13.3	46.7	11.1	5.6	20.0
フライドポテト	県内	21.5	37.2	33.1	3.3	1.7	3.3
	県外	27.8	27.8	30.0	6.7	1.1	6.7
ホットドッグ	県内	21.5	37.2	33.1	3.3	1.7	3.3
	県外	27.8	27.8	30.0	6.7	1.1	6.7

いずれの品目も県内、県外学生共通に好まれてはいるが、モスバーガー、ビッグマック、ピザ、タコス  
は相対的にみて県内学生の嗜好度がやや高かった。

ビッグマックは「大好き」、「好き」と回答した者を合わせると県内学生は42.1%、県外学生26.7%と、有意に県内学生に好まれる傾向がみられる。マクドナルドの聴取調査でも本土に比べ売上が高いことがわかり、嗜好性と売上状況は一致しているといえる。ビッグマック等の量の多いハンバーガーは米国人が好んで食することから、沖縄県民もその食事形態の影響を受けたものと推察する。

嗜好調査を総括すると、沖縄は本土に比べ洋風ファーストフード店の出店は早く、また店舗数も

多いため、幼い頃から利用する機会も多く、嗜好面でも本土との差異がみられるのではないかと思われたが、顕著な差はみられなかった。全体的にみるとフィレオフィッシュ、タコスを除いたすべての品目で約50%以上の学生が「大好き」、「好き」と回答していることから、県内・県外学生を問わず洋風ファーストフードは若者の嗜好性にあった食物だといえる。

(7) 洋風ファーストフード利用に対する意識調査

洋風ファーストフードを利用することについてどのような意識をもっているかを調査し、その結果を表7に示した。利用することについて、「大

表7 洋風ファーストフード利用に対する意識調査 - 琉大学生 -

質問項目	カテゴリー	県内学生(%)	県外学生(%)
1. 洋フを利用することについて	1. 大変よい	5(4.1)	1(1.1)
	2. 時々ならよい	94(77.7)	67(74.4)
	3. あまり利用しない方がよい	20(16.5)	15(16.7)
	4. よくない	2(1.7)	4(4.4)
	5. その他	0(0.0)	3(3.3)
2. 今後の食生活で洋フを取り入れたいか	1. おおいに取り入れたい	8(6.6)	2(2.2)
	2. 時々、取り入れたい	63(52.1)	49(54.4)
	3. あまり取り入れたくない	35(28.9)	26(28.9)
	4. 取り入れたくない	3(2.5)	3(3.3)
	5. どちらともいえない	12(9.9)	17(18.9)
3. 今後の食生活で洋フをどのように取り入れたいか	1. 主菜	26(21.5)	17(18.9)
	2. おかずの一品	12(9.9)	9(10.0)
	3. 間食	59(48.8)	44(48.9)
	4. 取り入れたくない	3(2.5)	3(3.3)
	5. その他	21(17.4)	17(18.9)
4. 今後洋フは発展すると思うか	1. 思う	82(67.8)	56(62.2)
	2. 思わない	12(9.9)	6(6.7)
	3. わからない	27(22.4)	28(31.1)

変よい」、「時々ならよい」と回答した者は県内学生で81.8%、県外学生で75.6%を占め、肯定的な意見が多い。「できれば利用しない方がよい」、「よくない」と回答した者は県内学生で18.2%、県外学生で21.1%といずれも否定的な意見は少なく、差もみられなかった。

(8) 今後の動向

次に、今後の食生活に洋風ファーストフードはどのように位置付けられるか予測してみた。県内・県外学生とも「おおいに取り入れたい」、「時々取り入れたい」と答えた者が約60%を占め、「あまり取り入れたくない」、「取り入れたくない」

といった消極的な意見は約30%であった。前項では洋風ファーストフードを利用することについて、約70%以上の者が肯定的な回答をしたのにもかかわらず、今後の食生活に取り入れることに対してはやや消極的になる傾向がみられた。

今後の食生活で洋風ファーストフードを取り入れたいと回答した学生に対して、どの様に取り入れたいか質問したところ、県内・県外学生とも「間食として」が最も多く約50%、次いで「食事の主菜として」が約20%で、県内・県外学生の有意差はみられなかった。取り入れたくないとした理由については、県内・県外学生とも「栄養の偏

りがあるから」が約60%を占め、次いで「食事は手作りがよい」が多く、「おいしくないから」といった嗜好性を挙げた者は少なかった。

今後、洋風ファーストフードは発展していくと思うか、については、いずれも「思う」と回答した学生は約6割以上を占め、「思わない」とした学生はわずかで県内・県外学生の差はみられなかった。こうした調査結果から、手軽に利用できる洋

風ファーストフードは今後も食生活に取り入れられるものと推察する。

## 2. 社会人の年代別比較

### (1) 洋風ファーストフードの利用状況

学生対象の調査と同様に外食によく利用する飲食店について、年代別に調べた結果を表8に示した。20代では、喫茶店、洋風ファーストフード店、

表8 洋風ファーストフードの利用状況 -年代別比較-

質 問 項 目	カ テ ゴ リ ー	20代(%)	30代(%)	40代(%)	50代(%)
1. 年齢		45(17.8)	65(25.8)	77(30.6)	65(25.8)
2. よく利用する飲食店 (重複回答)	1. 一般飲食店	14(31.1)	22(33.8)	28(36.4)	23(35.4)
	2. 日本料理店	18(40.0)	18(27.7)	31(40.3)	27(41.5)
	3. 西洋料理店	11(24.4)	13(20.0)	11(14.3)	5( 7.7)
	4. 中華・東洋料理店	3( 6.7)	14(21.5)	13(16.9)	19(29.2)
	5. そば・うどん店	7(15.6)	24(36.9)	23(29.8)	29(44.6)
	6. 洋風ファーストフード店	18(40.0)	10(15.4)	6( 7.8)	2( 3.1)
	7. ファミリーレストラン	12(26.7)	26( 4.0)	22(28.6)	5( 7.7)
	8. 喫茶店	21(46.7)	6( 9.2)	5( 6.5)	3( 4.6)
	9. 寿司店	12(26.7)	13(20.0)	19(24.7)	16(24.6)
2. 洋フの利用状況	1. 週に2,3回	3( 6.7)	6( 9.2)	2( 2.6)	2( 3.1)
	2. 月に2回程度	26(57.8)	22(33.8)	16(20.8)	9(13.8)
	3. 月に1回	8(17.8)	19(29.2)	22(28.6)	21(32.3)
	4. 2,3カ月に1回	2( 4.4)	8(12.3)	17(22.1)	11(16.9)
	5. ほとんど利用しない	5(11.1)	7(10.8)	11(14.3)	13(20.0)
	6. 全く利用しない	0( 0.0)	2( 3.1)	8(10.4)	7(10.8)
	7. その他	1( 2.2)	1( 1.5)	1( 1.3)	2( 3.0)
3. 洋フを利用する理由	1. おいしいから	7(15.6)	1( 1.5)	4( 5.2)	7(10.8)
	2. 安いから	2( 4.4)	2( 3.1)	0( 0.0)	1( 1.5)
	3. 手軽で便利だから	29(64.4)	31(47.7)	30(39.0)	21(32.3)
	4. 待たない	2( 4.4)	2( 3.1)	4( 5.2)	4( 6.2)
	5. 料理する時間がない	0( 0.0)	1( 1.5)	0( 0.0)	0( 0.0)
	6. 自分で料理できない	0( 0.0)	2( 3.1)	3( 3.9)	0( 0.0)
	7. 子供が好きだから	1( 2.2)	20(30.8)	25(32.5)	14(21.5)
	8. 利用しない	2( 4.4)	4( 6.2)	4( 5.2)	5( 7.7)
	9. その他	2( 4.4)	2( 3.1)	7( 9.1)	13(20.0)

日本料理店の順に多く、30代では、ファミリーレストラン、そば、うどん店、一般食堂、40代では、日本料理店、一般食堂、そば、うどん店、50代では、そば、うどん店、日本料理店、一般食堂の順に多く、年代層によって利用する飲食店に差異がある。洋風ファーストフード店の利用率は20代で40%を占めるのに対して、30代では15.4%、40代では7.8%、50代以上になると3.1%と年代が上がるにつれて利用率は減少している。

洋風ファーストフードの利用状況は、20～30代で「月に2回程度」、40～50代では「月に1回」

が最も多く、年代が上がるにつれて利用回数が少なくなる傾向がみられる。反対に「ほとんど利用しない」。「全く利用しない」と回答した者は高年代ほど多くなっている。しかし、利用回数にこだわらず、洋風ファーストフードを利用する者の割合をみると20代で86.7%、30代で84.5%、40代で74.1%、50代で66.1%になり、若い世代だけでなく40代、50代でもかなり高い値を示し、幅広い世代に利用されていることがわかった。

### (2) 利用する理由

洋風ファーストフードを利用する理由について



は、いずれの年代も「手軽で便利だから」と簡便性を挙げた者が多かった。また、30代以上では「子供が好きだから」の回答も多い。利用しない理由としては「おいしくないから」と嗜好性を挙げた者が多く、次いで「栄養に偏りがあるから」であった。50代では「食べ慣れないから」との回

答も35%ある。

(3) 利用に対する意識

洋風ファーストフードを利用することに対してどのように考えているか、その意識について調べ、その結果を表9にまとめた。利用頻度についてみると、「時々ならよいと思う」は各年代とも共通

表9 利用に対する意識 一年代別比較一

質問項目	カテゴリー	20代(%)	30代(%)	40代(%)	50代以上(%)
1. 洋フを利用することに対して	1. とてもよい	2(4.4)	1(1.5)	1(1.3)	1(1.5)
	2. 時々ならよい	32(75.6)	37(56.9)	49(63.6)	44(67.7)
	3. あまり利用しない方がよい	5(11.1)	20(30.8)	15(19.5)	8(12.3)
	4. 利用しない方がよい	3(6.7)	5(7.7)	10(13.0)	6(9.2)
	5. その他	1(2.2)	2(3.1)	2(2.6)	6(9.2)
2. 今後の食生活で洋フを取り入れたいか	1. おおいに取り入れたい	2(4.4)	1(1.5)	0(0.0)	0(0.0)
	2. 時々、取り入れたい	34(75.6)	43(66.2)	44(57.1)	35(53.8)
	3. あまり取り入れたくない	6(13.3)	18(27.7)	22(28.6)	19(29.2)
	4. 取り入れたくない	2(4.4)	1(1.5)	9(11.7)	6(9.2)
	5. その他	1(2.2)	2(3.1)	2(2.6)	5(7.7)

して高い割合を占め、約57%以上が肯定的な回答をしている。しかし、「あまり利用しない方がよい」、「利用しない方がよい」と否定的な回答をした者も30~40代に多くみられる。これは、子育ての年代であり、栄養あるいは健康上の問題点など、子供の食生活に及ぼす影響を憂慮する意識が働いたものと考えられる。

では、今後、食生活に洋風ファーストフードを取り入れたいかについては、「おおいに取り入れたい」、「時々取り入れたい」を合わせると20代で80%、30代で67.7%、40代で57.1%、50代以上では53.8%と、若い年代ほど、取り入れたいとする意識が強く学生よりも高い率である。なお、いずれの年代も「取り入れたい」と回答した者が半数以上を占めており、沖縄では洋風ファーストフードは今後も若者を中心に幅広い年代層に利用されるものと予測される。

これまで述べたように洋風ファーストフードは、学生や社会人の「利用状況」や「意識」の調査結果からも若い年代に好まれる外食産業であることは明らかであるが、40代から50代以上でも予想以上に利用度が高く、沖縄では今後も食生活に取り入れたいとする肯定的な意向をもつ者が多い。こうした特性は、沖縄県民が終戦直後、直接的にアメリカの食生活スタイルに接し、それを受け入れ

てきたこと<sup>3)</sup>、さらに洋風ファーストフードの出現が早く、その味に慣れ親しんだ食体験があることが影響しているものと考えられる。

IV. 要 約

米国統治時代、沖縄に導入された洋風(米国系)ファーストフードが、沖縄県民の食生活にどの様に受け入れられているのか、その利用状況と意識調査を行った。調査対象は琉球大学学生と社会人(沖縄銀行行員)である。その結果は次の通りであった。

1. 琉球大学学生の県内出身学生は県外学生と比較して洋風ファーストフードの利用頻度は高く、外食産業(飲食店)の中で最も多く利用している。利用回数は、月に2回以上と答えた者が県内学生は76.8%で県外学生の52.2%に比べて多い。

2. 洋風ファーストフードの嗜好性については、県内・県外学生で大差はないが、ビックマック、モスバーガー、ピザ、タコスなどは県内学生に好まれている。

3. 洋風ファーストフードを利用することについて、琉球大学学生は肯定的な意識があり、今後も取り入れたいとする者が約60%あった。

4. 社会人の洋風ファーストフードの利用頻度は若い年代ほど高いが、50代以上の年代でも月1

回以上利用している者が約50%であった。また、今後も食生活に取り入れたいと回答した者が、どの年代も54%以上あり、利用することに肯定的な意識をもっている。

5. 米国資本のA&Wが導入されて30年を経た現在、洋風ファーストフードは手軽な食事、あるいは間食・主菜に利用され、沖縄の食生活スタイルに定着している。これは米国統治によって、県民がアメリカ型食生活を直に体験し、それを受け入れたことが大きく影響していると考えられる。

### 謝 辞

本研究を進めるにあたって、聴取調査にご協力

して下さいました、外資系洋風ファーストフード企業の皆様、アンケート調査に協力して下さいました、県内〇銀行、琉球大学教育学部学生の方々に、厚くお礼を申し上げます。

### 引用文献

- 1) 通商産業大臣官房調査統計部「平成4年 商業統計表 一般飲食店」平成5年6月 P12
- 2) 日本マクドナルド株式会社広報部「McDnal'd News」1994 P2
- 3) 金城 須美子「戦後沖縄の食文化—アメリカ統治と食の変容—」大田昌秀先生退官記念事業会編『沖縄を考える』1990 頁385~405